

## 井上泰幸 略年譜

### ●おいたちから終戦までの歩みと映画の世界への踏み出し

- 大正11(1922)11・26 井上市治・チヨ夫妻の、8人兄弟の5男として誕生。  
昭和 2(1927) 父親が42歳で死去。(井上氏4歳)  
昭和15(1940) 祖父が死去。  
昭和16(1941) 高千穂製紙株式会社に入社。  
昭和19(1944)4 佐世保海兵団に入隊。  
12・25 輸送任務中に、P-51ムスタングに被弾。左足を負傷。  
昭和20(1945)8 傷口悪化の状態終戦を迎える。  
8・18 軍の解散で、傷が完治しないまま海軍病院から出され帰郷。  
昭和21(1946)1・29 別府の海軍病院で 作業用の義足で数ヶ月の歩行訓練後、退院して実家に帰る。  
小倉の職業訓練所で家具づくりの勉強。  
昭和23(1948)10・2 上京  
11 松蔭高校(現松蔭学園)に途中入学。働きながら苦学する。  
昭和25(1950) 日本大学芸術学部美術科に入学。山脇巖先生と出会い美術造形を学ぶ。(29年3月同大学卒業)  
昭和27(1952) 新東宝撮影所に通い始め、製図・特殊美術製作の手伝いを始める。

### ●偶然が重なって映画の世界へ

- 昭和28(1953) 31才での映画界入り  
『春色お伝の方 江戸城炎上』・『潜水艦ろ号未だ浮上せず』(ともに1954)  
昭和29(1954) 特撮映画の金字塔作品『ゴジラ』(1954)に参加、円谷英二特技監督との出会い。  
昭和30(1955) 結婚

### ●衝突を経て築かれた円谷英二特技監督との信頼関係

- 『空の大怪獣ラドン』(1956) 福岡が舞台の映画 初のカラー怪獣映画  
『日本誕生』(1959)  
昭和35(1960) 『ハワイ・ミッドウェイ大海空戦太平洋の嵐』で東宝撮影所内に特撮用大プールを設計。波を起こす装置2種類を設計。  
『モスラ』・『世界大戦争』(ともに1961)  
『妖星ゴラス』(1962)  
『キングコング対ゴジラ』(1962) 東宝30周年記念  
『海底軍艦』(1963)

### ●美術監督への就任(1966)と円谷特技監督との別れ(1969)

- 『フランケンシュタインの怪獣サンダー対ガイラ』(1966) 日米合作 撮影中に母チヨ氏死去。  
『ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘』(1966)  
『怪獣島の決戦 ゴジラの息子』(1967)  
『キングコングの逆襲』(1967) 東宝創立35周年記念作品 日米合作  
『怪獣総進撃』・『連合艦隊司令官山本五十六』(ともに1968)  
『緯度0大作戦』(1969) 日米合作作品  
『日本海大海戦』(1969) 円谷特技監督の遺作  
『ゲソラ・ガニメ・カメーバ 決戦!南海の大怪獣』(1970)  
昭和46(1971)4 東宝が映像事業部門を発展解消し、東宝映像株式会社設立。  
11 株式会社東宝映画設立  
『ゴジラ対ヘドラ』(1971) 円谷特技監督亡き後初のゴジラ映画 井上氏東宝退社前最後の作品

### ●独立、アルファ企画の立ち上げ(1971)

- 昭和46(1971) 東宝を退社してアルファ企画を設立。井上氏49歳  
『日本沈没』(1973) 東宝に請われて特撮美術監督に就任。大ヒットにより東宝から表彰される。

### ●アルファ企画として、キャラクター造形・ミニチュア制作を数多くの映画作品で担当

- 『ゴジラ対メカゴジラ』(1974) ゴジラ生誕20周年記念映画  
『宇宙からのメッセージ』(1978)  
『ウルトラマン80』・『五番町夕霧楼』(ともに1980)  
『連合艦隊』(1981)  
『ゴジラ』(1984) ゴジラ復活 第9回「日本アカデミー賞特殊技術スタッフ賞」受賞  
『竹取物語』・『首都消失』(ともに1987) 両作品で 第11回「日本アカデミー賞特殊技術スタッフ賞」受賞  
『アナザーウェイ D機関情報』(1988) 最後の特撮美術監督作品  
昭和57(1982) 阿蘇火山博物館の展示用ジオラマ制作。  
昭和59(1984) 東京ディズニーランドのリバー・オブ・アメリカのジオラマ制作。  
お台場の船の科学館に戦艦大和(全長13m)が展示。(～平成16(2004)まで)  
平成5(1993) 東武ワールドスクエアに姫路城と熊本城の25分の1の模型展示。  
平成12(2000)4 脳梗塞を患い、右半身が不自由になる。10 アルファ企画休業  
平成13(2001) 地元の観音堂の木造仏“笑う閻魔さま”の修復作業に携わる。  
平成15(2003) 旧特美メンバーによる第1回桜の会(井上邸でのお花見)開催。  
平成16(2004) ゴジラ生誕50周年 アメリカの招待を受け渡米して講演をする。  
平成22(2010)7・19 妻玲子氏死去 満78歳  
平成24(2012)2・19 井上氏死去 満89歳

参照:『特撮美術監督 井上泰幸』(キネマ旬報社)

<関連事業> 主催:特撮美術監督井上泰幸事業実行委員会 後援:古賀市・古賀市教育委員会  
**三池敏夫特撮美術監督 井上泰幸氏を語る! / 『空の大怪獣ラドン』上映会**  
8月23日(土) 13:30～16:30 会場:リーパスプラザ大ホール 古賀市中央2丁目13-1  
参加料金:当日大人1,200円・前売り1,000円 中学生以下半額  
関連事業の問い合わせ先:古賀市役所 経営企画課 092-942-1346(直通)



# YASUYUKI INOUE For ever

平成26年

7月18日(金)～8月31日(日)

10:00～18:00

休館日:毎週月曜日、

7月24日(木)、8月28日(木)

総合監修:特撮美術監督 三池敏夫氏

会場:サンフレアこが2階ギャラリー

料金:入場無料

主催:古賀市教育委員会・  
古賀市立歴史資料館

古賀市中央2丁目13-1  
092-944-6214



世界を驚かせたミニチュア特撮  
円谷英二特技監督を支えた映画デザイナー  
井上泰幸は古賀市出身であった

「ゴジラを支えたデザイナー」  
「特撮美術監督 井上泰幸展」

## 企画展によせて

井上泰幸氏は、福岡県糟屋郡小野村薦野（現古賀市）の出身で、日本映画史の中に燦然と輝く特撮映画界を支えた美術デザイナー・特撮美術監督として活躍され、平成24年にお亡くなりになりました。

特撮映画の世界は、昭和29年の「ゴジラ」誕生から全盛期を経て、本年はゴジラ生誕60周年を迎えます。井上氏はその歩みの中で、円谷英二特技監督の下、全ミニチュアセットに関わり、特撮美術課の組織づくりをされました。そして映画に関わるあらゆるもの設計から製作まで、その美術手腕を遺憾なく発揮されました。

本展では、わが郷土の先人の一人として井上氏の人柄や功績を広く紹介し、想像力に溢れる多くのスケッチや試作模型などを通じて、ご来館の皆様を特撮美術の世界へ誘います。映画の世界を回想していただくとともに、郷土への愛着や誇りを感じていただける機会になれば幸いです。

井上少年を育んだ故郷は、豊かな自然と温かい人の絆に恵まれています。さまざまな苦難を乗り越えて貫

かれた生涯には、それがきっと支えになっていたことと思われま

す。井上展には、東郷登代美氏をはじめとする井上氏のご遺族からの数々の遺品寄贈と、井上氏の絵コンテ作品のオリジナル版借用のご配慮を賜りました。そして展示全般にはNPO法人FUKUOKAデザインリーグに制作構成を依頼し、井上学校門下生の一人でもある映画監督三池敏夫氏に総合監修を仰いで、質の高い内容での開催が実現しました。また、東宝映画元社長富山省吾氏（現日本アカデミー賞協会事務局長）や東宝株式会社をはじめ、多くの皆様にご支援ご協力を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。

会場でのひとときを心ゆくまでお楽しみくださいませようご案内して、ご挨拶いたします。

平成26年 7月

古賀市教育委員会  
教育長 荒木 隆

## ゴジラを支えた井上泰幸 三池敏夫



今から60年前、日本にゴジラという怪獣が誕生しました。

日本の怪獣映画は世界でも評判を呼び、特撮を監督した円谷英二さんは“特撮の神様”と言われていました。

井上さんはその円谷監督を支えた第一の功労者と言っても過言ではありません。井上さんは特撮デザイナーとしてすべてのセットを陣頭指揮し、誠実な作りこみを部下に徹底させました。世界を驚かせたのはその精巧なミニチュアセットだったのです。

井上さんはここ古賀市で生まれ、偶然の導きによって映画界に足を踏み入れます。その時すでに31歳。当初は応援だった井上さんが次第に実力を発揮し、セット設計全般を任されるようになったのは、『空の大怪獣ラドン』（1956）です。故郷福岡を舞台にしたこの作品に井上さんはやる気満々で取り組みます。そして本物と見違えるほど忠実な博多のミニチュアセット

が完成し、その出来栄えに円谷監督も驚愕したのです。

敬愛する円谷監督との仕事は約15年間でしたが、その後監督が代わっても真摯な姿勢は変わることはありませんでした。『日本沈没』（1973）や『連合艦隊』（1981）の記録的な大ヒットも井上さんの功績です。

今ではコンピューターで映画が作れる時代になりましたが、SF空想映画の原点はアナログ特撮にあります。特撮映画に命を懸けた井上さんの魂は永久に作品の中に宿っているのです。2014・7・18

### 三池氏略歴

1961年生まれ。熊本県出身。日本映画・テレビ美術監督協会理事。株式会社特撮研究所美術デザイナー。関連する作品には、『ゴジラ FINAL WARS』（2004）、『男たちの大和/YAMATO』（2005）、『ウルトラマンサーガ』（2012）、『巨神兵 東京に現わる』（2012）など。

# YASUYUKI INOUE

*For ever*

## 展示コーナーの紹介

### 原点は郷土にあり

小野村の村医として活躍し、顕彰碑が遺される父市治。地域の婦人会活動を牽引し養蚕を推進、夫亡きあと 家と子どもを守り育てた母チヨ。祖父泰造、伯父圓蔵、医者としての見識で郷土に貢献した長兄潔。5人の兄弟と2人の姉、地域の人、友。泰幸少年を育んだ郷里古賀は、自然と人情にあふれ、広く深く温かかった。そして、人として生きる強さと覚悟を教えたのも郷里だった。



井上家家族写真



故井上市治君之碑（薦野）

泰幸氏のおいたち  
B-1

### 創作を共有した芸術家のあゆみ

特撮映画美術デザイナーの夫とアルミ彫刻作家の妻。互いを認め、互いに支え合い、創作の道とともに歩んだ夫婦の歴史。豊かな情緒と深い想い、芸術家としての矜持。生きとし生けるものすべてに降り注いだ愛情。地域や子どもたちのためにと心をつくした夫婦の姿。



古賀の浜での母と妻



自宅玄関前での井上夫妻

夫婦の絆  
B-2

### ゆるぎなき創作活動の源泉

東宝勤務ののち、独立して設立したアルファ企画。自宅敷地内に、母屋・作業所2棟・妻のアトリエと4棟が林立。作業所2階の事務所内、すべてが見渡せる窓の横に設置された製図用デスクと椅子。旧特美の仲間や泰幸氏を敬慕する若手技術者が集い、本物を再現するという信念のもと人に感動と喜びをもたらすさまざまな製作物の命が生ま出された活動拠点。



アルファ企画外観



作業所内

作業場再現  
B-3

### 信念の人、井上泰幸の作品世界へようこそ!!

映画の世界に生きると決めた日から本物の再現にすべてをかけて取りくんだ男の人生。世界を驚かせた特撮映画のミニチュア製作。その一つ一つを支える基礎として生み出された絵コンテ作品の数々。円谷英二特技監督を支えた映画美術デザイナーの作品世界をお楽しみください。



海岸ジオラマ

井上泰幸から生まれたもの  
B-4



日本アカデミー賞受賞



製図台（ドラフター）と椅子・自作キャビネット



井上氏の喜寿を祝う会